

月刊シニアビジネスマーケット

超高齢社会のライフスタイルをアップする経営情報誌

SENIOR BUSINESS MARKET

2019
March
no.176

03



[特集]

小売業の シニアシフト最前線

昨

年4月、介護保険法・障害者総合支援法等の改正で施行された、高齢者と障害児による共生型サービスの都内初となる事業所が1月1日、東京都目黒区にオープンした。

東急東横線「学芸大学」駅から徒歩15分、JR山手線「目黒」駅からバスで10分の閑静な住宅街に立地する「ディサービスクローバー学芸大学」(地域密着型デイ)と「クローバーキッズ学芸大学」(放課後等デイ)がそれで、いずれも、東京都心部を中心に8カ所のデイサービス、2カ所の放課後等サービスを展開する株式会社CLOVERが運営する(別表)。

建物に入ると、和モダンをコンセプトとするお洒落なカフェ風の空間が広がります。東京都心部を中心に8カ所のデイサービス、2カ所の放課後等サービスを展開する株式会社CLOVERが運営する(別表)。



フローリング床暖房を取り入れた和モダンのディサービス空間

自由な交流を楽しむ高齢者と子どもたち



キャストが子連れ出勤の折、親子でゲームに興ずる

自社開発したiPadの記録システムでサービス向上

がり、1階がディサービス、2階が放課後等ディサービス(入口は2カ所)となる。1階フロアはフローリング床暖房を取り入れ、丸テーブルに4人掛けのいす(会話が生まれやすい距離感

となる)や、畳に慣れた利用者もくつろげる「畠ヶ丘」スペースも設ける。中央には古木を使った柱、柱の棚には飲料水やお茶が置かれ、その下は絵本棚、というように、高齢者と子どもの出合いの場となるような工夫が施される。

また、地域の人々も遊びに来られる交流スペースには古木の曲りベンチを配し、駄菓子屋が開店することもあるほか、インベーダーゲームまで用意されている。「子どもたちと高齢者がごく自然に会えて会話が生まれるよう、随所に仕掛けを施しました。一人ひとりのやりた

いことを、キャスト(職員)が受け止め方針づけをします」と同社取締役ファウンドラーの野口潔氏。ケアの基本は「自立支援」とし、個性を尊重した、ゆったりとしたスケジュールが組まれている。

「ディサービス内でゲスト(利用者)なりに活動すること、そして子どもたちや地域の方々と交流することで、自分の役割(社会参加)をもつていただけます」(野口氏)。厨房の調理台は、職員と利用者が一緒に使える。職員の手料理で昼食を出すほか、最長19時40分までの延長利用時には夕食も提供する。

共生型とした理由は、社会貢献であるほか、高齢者も障害児も1つの空間でケアすることでお互いによい影響

を与え合うことが、同社のディ運営事

業のなかで確認できたからだといふ。

発達障害の子どもが高齢者に可愛がられながら育つことで、欠落していた言葉や行動を取り戻す(自尊感情の醸

成)。逆に高齢者は子どもたちと楽しめながらふれ合って自信や自覚が生まれる(社会参加、尊厳の維持)。同社の放課後等ディサービスでは、「楽しく自信につながる療育」をコンセプトに、総合的な支援を行なっている。

また、女性キャストが考えた職員専用の特製の洗面台やトイレ、ロッカールームを設え、キャストが心地よく過ごせる気配りも。「人を幸せにできるのは幸せな人」と考えた結果です」と野口氏。事務室も1階のオープンスペースにあり、困いもない。

小規模デイの定員は18人、登録者は5人。放課後等デイは定員10人、初月の稼動率は45%。小規模デイの営業エリアは目黒区内、放課後等デイは周辺3km圏。開設5カ月で黒字転換が目標。

職員は1階5人、2階5人(常勤換算でおおむね兼務可能)。介護記録やiPadを活用した月次利用報告書等、家族とのリレーションも緊密だ。

共生型デイを支えるのは運営者のコ

ンセプトとソフト、その裏付けとなるハードであることが理解できる。2つ

の事業を1つの建物で行なう運営で経営効率も高めている。

都内初となる 共生型サービス施設がオープン

今
の
話題